

喜撰往來

大全



善撰往來

本尺桑辰は疼熱をさしり酒及

い食物乃くくをさしり人若神

志さるるをさしり一膳をさしり

月を何れもさしり百葉なり

茶ノ元梅尾明惠三人茶於種

と建仁寺妙榮西禅師又乞ひ

宇治里に植地ふ成寺は是利義

満云大因義江又命ふく種

しめふとも謂はし

茶葉茶種は所々一人

は法年少好き利輪中

世法尾ひは森撰山之麓

る種は衣葉茶の二番行

李はまははたふ生れ茶

冬初種し時々里専菜菜法

養ふくは子用ひ観も責

笑ホりくを扱又字と誓

右妻人し先正月く抄評了

二月く始乃此より柳紙録

ホく農冬を以て年中と

耕し耘さる喜田油乃管利

牌田の等と布ふ鎌金

新苗ふれ生長くこ茂るの

りて籠籠籠り摘採り

谷千て共怒し菜乃とふぬ

今一炭焼大と糖一極糖

を初斗くくく燭の薦

系と鮫虫一櫻利三糸

袋又入は武百かと一介と

杜棟くともく貫目分

厘毛拂と紀一弁糖法

荷豆一よ丹はく是と化李

式名毒入り納めく竹巻

一袋力此精よと味略るる

ふらふらと味ひるひに

羨不白中好一無一何

終之念を入之寂を去る

叔才之全才大判小判

奇劣或来銀亦南鑛之銀

子了夏板灰以朱各時亦判

く相場此印迄有根

張八四拾之分と一精と一

子一と寸錯八何費何百何

指又又時のお坤吉し兼登

石斗外合向又時午と

く連脱此高下阿り下在の

言を考調並味増習油務

木をて豫先支度し揚子月

産此扶一名之時可渡し

捕賃之指川向満百高産

忙西不記し分尔日産忙生

系貫日忙結賃人懐金取未

錢出入忙未兼日に操(と)て

又此し判事同産養片茶

店卸し素人法未時尔然し

してお封一換夫利道

く福子考一変る中一以之

永乞乃と道一在改道

雨子縁すの玉寄るとす

尾一官費

安政三年

西

辰八月

荒垣氏之物

十有日書之



江戸樂舎用